

第3学年国語科学習指導案

日時 平成18年9月29日(金) 5校時
児童 男子5名 女子2名 計7名
指導者 菊地 まどか

1 育てたい能力

- ◎「ちいちゃんのかげおくり」の場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読む(読 ウ)
- 文章における言葉の使い方に気をつけ、理解するために必要な語句の量を増やし、使い方の範囲を広げることができる。(言 エ)

2 単元名 場面の様子をそうぞうしながら読もう

教材名 「ちいちゃんのかげおくり」 あまんきみこ 作 上野紀子 絵

3 教材について

(1) 児童について

児童はこれまで、「きつつきの商売」や「三年とうげ」で言葉や文の意味や働き着目し場面の移り変わりや登場人物の様子や気持ちを想像してきた。言葉や文に着目し叙述に即して読むことは少しずつだができるようになってきている。しかし他の言葉や文と関連づけて読む力は十分ではない。

①読みの視点について

児童は読みの視点を、課題を解決するために着目する大切な会話・行動・情景と確認し、「きつつきの商売」の学習では、「きつつきの出した音」「野ねずみの会話文」「森の中の音」を読みの視点として、場面の様子を想像してきた。課題のどの言葉を糸口にしていけばよいかを教師が気づかせることにより、学習場面の読みの視点を設定することができるようになってきている。また児童は思い思いの読みの視点を発表し合う中で、より課題にそった視点を設定していく学習の仕方を理解してきたようだ。しかし、根拠をもって自分の力で読みの視点を設定することやどの言葉や文に着目すればよいかというところまで言語を意識して設定することは十分ではない。

②一人学びについて

読みの視点に沿って、大事な言葉や文を見つけ、サイドラインを引くことはできるようになってきている。「きつつきの商売」の学習では、言葉から受ける森の様子を書き込む活動をした。書き込んだ内容を見ると、抜き出した言葉そのもののイメージをふくらませた書き込みはできるが、抜き出した言葉の前後の文と関わらせてより叙述に即した書き込みができるまでには至っていない。

(2) 教材について

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書をしようとする態度を育てる」である。本単元では、第3、4学年の「C 読むこと」の指導事項「ウ」「場面の移り変わりや情景を叙述を基に想像しながら読むこと」「書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと」を重点目標とする。場面の移り変わりを捉えるには、場面を比較し、その違いについて考えることで理解していくものと考え。また、想像するとは、場面の様子を頭の中で絵として思い描いたり、場面の雰囲気を感じ取ったりすることが大切である。叙述に即して読ませるためには、児童の言葉への気づきを大切に、言葉を根拠に想像していくことが必要である。そして1・2学年までの場面ごとに想像を広げてきた段階から、場面と場面を想像によってつなげながら読むことをねらいとしている。

本教材は、空襲によって一人ぼっちになり幼い命をうばわれたちいちゃんを通して、家族が一緒にいることの至上の幸せや平和の大切さを描いた物語である。場面は、「家族でかげおくりをするちいちゃん」「おかあさんとはぐれてしまったちいちゃん」「ぼうくうごうでおかあさんとおにいちゃんを待ち続けるちいちゃん」「ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃん」「戦争後公園で遊ぶ子どもたち」の5つに分けられる。戦争の悲惨さを直接表現してはいないが、登場人物の言動や行動や情景が生き生きと描かれているので、子どもたちは、物語の展開にそってちいちゃんにより沿いながら読み進めていくであろう。また、第1場面の家族そろってのかげおくりと、第4場面のひとりぼっちのかげおくりを対比したり、第5場面の戦争後、公園で遊ぶ子どもたちとちいちゃんをくらべたりすることによって、読みが深まることを実感できる教材である。

言語事項としては、文末やダッシュ、複合語に着目することでよりちいちゃんのおかれている状況を叙述に即して読み取る。これらの点から本教材は単元の目標を達成させるために適した教材である。

(3) 指導について

《本校の研究に関わって》

①読みの視点について

本単元の学習は、場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像して読むことをねらいとしている。これまで、場面ごとに叙述と結びつけ、想像を広げながら読む学習をしてきた。本単元では、さらに場面と場面をつなげて読むことにより、これまで以上に言葉に着目し、場面の様子を対比的に想像し、深く味わえるようにしていきたい。そのために、場面と場面をつなげて想像しより理解が深まるような読みの視点を設定することが大切である。

初発の感想では、「ちいちゃん」「かげおくり」を読みの視点とし、言語は場面を通して繰り返される言葉に着目させる。場面読みでは、繰り返し出てくるちいちゃんの様子を読みの視点としながら2つの場面を比べて読み取らせる。そのことにより、場面と場面をつなげていく学び方を意識させていきたい。また、言語事項に着目させるために一の場面の学習を手がかりとさせていきたい。このような繰り返しが根拠を持った読みの視点の設定ができる学び方につながると考える。

②一人学びについて

一人学びの内容や方法も児童が主体性を持って決められるように既習の学習方法を思い出させていきたい。

場面と場面を比較した一人学びができるように、ワークシートを作成し。共通点や相違点にサイドラインを引く。また大事な言葉や文にサイドラインを引き、そこから分かることや様子を書き込ませていく。書き込みをさせることで、同じ言葉を使っても、おかれている状況に違いがあることを捉えられるようにしていきたい。

4 学習指導目標と評価規準

	学 習 指 導 目 標	評 価 規 準
関心意欲態度 国語への	○場面と場面をつなげながら読むことに関心をもち、戦争をテーマにした本を読もうとする。	場面と場面をつなげながら読むことに関心をもち、戦争をテーマにした本を読もうとしている。
読む能力	◎場面の様子を叙述に即して、想像しながら読み感想を深めることができる。 (読 ウ)	ちいちゃんの様子や気持ちを中心とした場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読んでいる。
解 読 能 力 ての言語知識理解	○文章における言葉の使い方に気をつけ、理解するために必要な語句の量を増やし、使い方の範囲を広げることができる。(言 エ)	同じ動作を表すにもいろいろないい表し方があることを理解している。(複合語)

5 指導計画・評価計画 (別紙)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

4の場面の、「かげおくり」と「ちいちゃんの様子」を1の場面を比べて想像しながら読み取ることができる。

(2) 具体的評価規準と児童への支援

	A: 十分満足できると判断できる状況例	B: 概ね満足できると判断できる状況	Bに至らないと判断した児童への支援
読むこと	叙述をもとに場面を比べ、戦争は罪のないちいちゃんを命をうばってしまうとても悲しいものであることを読み取っている。	叙述をもとに場面を比べ、ちいちゃんのかげおくりは、かなしいかげおくりであることを読み取っている。	友達の見聞きながら、根拠となる言葉を見つけ、ちいちゃんのかげおくりは、一人で行ったことが分かる。

(3) 本時の指導について

○読みの視点と大事な言葉

読みの視点	○1の場面のかげおくりと4の場面のかげおくりの違い ○たしざん言葉
大事な言葉 文	○ちいちゃんは、 <u>ふらふらする足をふみしめて</u> 、 <u>立ち上がると</u> 、 <u>たった一つのかげぼうしを見つめながら</u> 、 <u>数えだしました。</u>

○一人学び

サイドラインを引いた文に、ちいちゃんの様子を書き込む。

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点（・）及び評価（☆）
つ か む 5 分	<p>1 前時までの学習を想起する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちいちゃんは必ずお母さんやおにいちゃんがもどってくると信じている。 <p>2 本時の学習課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ちいちゃんは、どんなかけおくりをしたのだろう</p> </div> <p>3 学習の見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点を確認する。 <p>○「1のかげおくりと4のかげおくりちがい」 (○たしざん言葉)</p> <p>4 学習場面を読む</p> <p>(1) 学習場面を音読する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読をしながら2つの場面の相違点を見つける。 <p>・</p> <p>(2) 一人学びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1の場面と比較して、ちいちゃんの様子が一番ちがう文から、ちいちゃんの様子が分かることを書き込む。 <p>(3) 学び合をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人学びをしたことから、家族に会いたいことを願っていることを知る。 ・複合語の効果について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学び方を振りかえる。 ・一人で家族の帰りをまつちいちゃんの気持ちや様子を想起させることで、本時の課題とつなげる。 ・ ・課題を解決するために1のかげおくりと4の場面のかげおくりを比べて読めばよいことを今までの学習の仕方から導き出させる。 ・一人の児童の発言を他の児童に返しながらかん通視点を設定していく。 ・言語事項については、学習を進める中で気づかせていく。 ・お会話文をつなぐ地の文から二つのかけ送りの相違点を明らかにしていく。 ・「ふらふらする足～たった一つのかげぼうし」 ・「いつの間にか重なっていく」 ・「くっきりとしろいかげが4つ」 ・「お父さんの声が入ってきました。」 ・「ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がるとたった一つのかげぼうしを見つめながら、数えだしました。」の文をどのように一人学びしていったらよいか確認させる。 ・他のところについては、学びあいでも触れるようにする。 ・「ふみしめる」→倒れないようにしっかりたつ ・「立ち上がる」→「立つ」+「あがる」のこと ・「たったひとつ」→ちいちゃん一人 ・「みつめる」→かけおくりが成功するように ・「数えだしました。」→「数える」+「出す」のことで数え始めた ・体が弱っているのに必死になってかけおくりをしていわけを考える。 ・「踏みしめる」のような言葉と言葉がつながるとよりくわしく様子が分かることを知る。(発言) <p>☆言：動作を表す言葉を見つけ、使い方について考えることができる。</p>

<p>ふかめる</p> <p>33分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1の場面のかげおくりと比較することで、本時は一人ぼっちでかげおくりをしたことと、幻想の中でかげおくりをしたことに気づき、願いをかなえたことを知る。 ・叙述をもとにちいちゃんの死について考える。 ・ふたつのかげおくりがちいちゃんにとってどんなものだったかについて考える。 <p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを黒板を手がかりにまとめ文にする。 <p>6 まとめを音読をする</p> <p>7 本時の学び方についてまとめ時事の学習について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点、大事な言葉の確認。 <p>8、自己評価（一人学び、学びあいまとめ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族みんなのかげおくりとひとりぼっちのかげおくり ・現実のかげおくりと幻想のかげおくり (つぶやきました) (ふってきました。) (説明しました) (聞こえてきました) (横からいいました) (数えだしました) ・「ちいちゃんはきらきらわらしました。」「夏のはじめのある朝、こうして女の子の命が、空に消えました。」から、ちいちゃんのかげおくりは、家族にあえて良かったが、とても悲しいかげおくりであることに気づかせる。 <p>☆読 1の場面と4の場面をくらべて、かげおくりとちいちゃんの様子を想像しながら読み取っている。 (発言・ノート)</p> <p>ちいちゃんの立場になって音読をするように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子をあらわす言葉には、言葉と言葉をかさねた言葉があることに触れる。
------------------------	--	--

板書計画

課題

ちいちゃんはどうなにかげおくりをしたのだろう

読みの視点

一の場面と四の場面の比較

一人学び

ちいちゃんの様子に分かることを書き込む (たしざん言葉)

ちいちゃんのかげおくり

あまんきみ

たつた一つのかげぼっしを 見つめながら

(ちいちゃんだけいる)

ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて

(倒れないようにしっかりと)

立ち上がるよ

(ゆっくり)

じっと かげおくりが成功するように

数えだしました

(数えはじめ)

現実

(つぶやきました)

(説明しました)

(横からいいました)

(数えだしました)

夢

(青い空からふって来ました)

(聞こえ出しました)

きらきら笑い出しました

みんなに会えた。うれしい

ちいちゃんの絵

- ・4人になりたい
- ・みんなに会いたい
- ・前のように家族みんな

夏のはじめのある朝、こうして、女の子の命が、空に消えました。

まとめ

ちいちゃんは幻想の中でかげ送りをしました。そこでやっと家族に会いました。でも、そのかげおくりは、ちいちゃんが死んでしまう悲しいかげおくりです。

指導計画と評価計画

時	本時のねらいと課題	読みの視点 及び大事な言葉	評価規準 (評価の方法)	支援の手立て	チェック欄						
					1	2	3	4	5	6	7
					k	n	m	y	t	ka	mi
1、2	登場人物や出来事を押さえ、初発の感想を交流しあう。 ○感想を書こう。 ○新出漢字を知ろう	○ちいちゃんについて ○かげおくりについて	関 読 言 ○自分の感じ方と比べながら友達の感想を聞こうとしている。(ノート・発言) ○あらずじ捉え、ちいちゃんとかげおくりについて感想を持っている。(ノート) ○:分からない言葉や漢字を調べる。	・挿絵を使って、かげおくりのイメージをつかめるようにする。 ・視点に沿ってを書くように声かけをする。 ・戦争によって変化していく主人公の様子に着目して感想を書くよう促す。							
3	場面ごとに小見出しをつけ、場面と場面をつなげて読むための視点を設定する。 ○学習計画を立てよう	○場面はちがうのに繰り返し出てくる同じ言葉 ・かけおくり ・ひとりぼっちでねむる ・きらきらわらう	関 読 言 ○同じ言葉の表す内容に着目し読むことに意欲を持っている。 ○場面ごとに小見出しをつける。(ノート) ○繰り返しで出てくる言葉が分かる。(発言)	・小見出しはちいちゃんを主語としてつけていくこととする。							
4	二つのかけおくりの同じところを見つけ、1の場面のかけおくりについて読み取る。 ○1のぼめんのかけおくりはどんなかけおくりだろう。	○かけおくりをしている時の様子(様子を表す言葉) ・四人は手をつなぎました。 ・白い四つの～すうっと空にさがりました。 ・「すごい」・記念写真	関 読 言 ○かけおくりの様子を想像し、音読しようとしている(音読) ○楽しそうにかけおくりをする家族の様子や気持ちを想像して音読している。(音読) ○複合語を知る。(発言)	・会話文の前後に書かれている言葉に気をつけさせる。 ・四人は手をつなぎました。白い四つの～すうっと空にさがりました。「すごい」に着目するように声をかける。							
5	空襲の様子や家族とはなれて一人ぼっちになってしまうちいちゃんの様子を叙述をもとにを想像し読み取る。 ○ちいちゃんはどんなことを思って一人眠ったのだろう	○2と3の場面を比べる。(同じところ、違うところ) ○繰り返しの言葉「ひとりぼっちで眠る」「おかあちゃん」 ・たくさんの人においぬかれたり、ぶつかったりー(ダッシュ) ・「お母ちゃん、お母ちゃん」「お母ちゃん」 ・炎の渦が追いかけてきます。	関 読 言 ○空襲の様子や家族とはなれて一人ぼっちになってしまうちいちゃんの様子叙述をもとにを想像し読み取ろうとしている。 ○「お母ちゃん、お母ちゃん」の置かれた状況や気持ちを想像している。(ノート・発言) ○ダッシュの使い方を知る。(発言)	・たくさんの人においぬかれたり、ぶつかったりー(ダッシュから「～たり～たり」に続く言葉を考えさせちいちゃんが逃げる様子を想像させてから、不安な気持ちでおかあちゃんと叫んだ気持ちを考えさせたい。							
6	一人ぼっちで家族のかえりを待つちいちゃんの様子を2の場面と3の場面をつなげながら読み取ることができる。 ○ちいちゃんはどんなことを思って一人眠ったのだろう	○2と3の場面を比べる ○繰り返しの言葉「一人ぼっちで眠る」 「うなずきました。」	関 読 言 ○ちいちゃんの言動を表す言葉に着目して読もうとしている(発言・ノート) ○を2の場面とつなげて読むことで、家族を待つ気持ちはまったく変わっていないことを読みとっている(発言・ノート) ○重要な語句を増やしている。「ざつのう」「ほしいい」(発言)	・ぼうくうごうは、こわれかかっている暗いことに気づかせ、ちいちゃんが不安になっていることに気づかせる。しかし、2の場面と同じように母を待つ気持ちに代わりがないことに気づかせる。体が衰弱し始めていることにも気づかせていきたい。							
7 本時	二つのかけおくりを対比しちいちゃんにとってどんなかけおくりだったか読み取る。 ○ちいちゃんは、どんなかけおくりをしたのだろう。	○1の場面と4の場面の比較 様子を表す言葉(たしざん言葉) ・ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると～ ・聞こえ出す ・	関 読 言 ○二つのかけおくりの違いを表す言葉に着目して読み取るうとしている。(発言・ノート) 会話文の前後にある文に着目しちいちゃんの思いを読みとっている。(発言・ノート) 複合語を知る。(発言)	・ワークシートを使うことで場面の様子の違いを視覚的にも意識させ、1の場面とのちがいを見つけさせる。 ・「ふってきました。」「たったひとつのかけぼうし」とくっきりとしろいかげが4つの文を1の場面と比較しながら考えさせてから、現実のかげ送りや幻想のかげおくり気づかせる。							

8	ちいちゃんと現在の平和な情景を対比し、平和の大切さを感じ取ることができる ○きらきら笑うとはどんなことだろう	○今までのちいちゃんの様子・思いと何十年後の平和な様子の比較 ・きらきら笑い出しました。 ・きらきら笑い声を上げて	関 読 言 ○ちいちゃんの命が消えていったことと現在の平和な情景を読み取り、平和の大切さを感じている。(発言・ノート) ◎「きらきらした」に着目し、ちいちゃんが生きた時代と何十年後を比較して読み取っている。(発言・ノート) ○重要な語句を増やしている。(発言)	・「きらきら」に着目させ、言葉の前後を読むことで意味の違いに気づかせていく								
9	各場面の様子を思い出しながらちいちゃんや戦争に対する自分の感想を書き発表する。 ○ちいちゃんに手紙を書こう。	○心に残った言葉、文	関 読 言 ○学習を振り返り、ちいちゃんに手紙を書くことで学習のまとめをしようとしている。(ノート) ◎題名に着目しながら学習を振り返り、ちいちゃんへの手紙を書いている。(ノート) ○言葉の使い方に気をつけている。(ノート)	・場面と場面を想像しながらつなげて読んでいくことで読みが深まっていることに気づかせちいちゃんに寄り添って手紙を書かせたい。								
10	同じ行動を表すいろいろな言葉を集め使い方を知り音読練習をする。 ○音読発表会の計画をたてよう。	○様子を表す言葉 ○動作を表す言葉 ○ダッシュ ○文末	関 読 言 ○音読発表会の計画を進んで立てようとしている。(発言) ◎様子を表す言葉や文末に注意して音読の練習をしている。(音読) ○言葉の使い方に気をつけて音読の練習をしている	・今までの学習を壁面を手がかりに振りかえらせる。								
11	音読発表会をする	○大事にしたい言葉や文	関 読 言 ○自分の思いを音読にあらわそうとしている。(発表) ◎自分の読みを音読に表している。(発表) ○言葉の使い方に気をつけて音読している。(発表)	・どこをどのように読みたいか、自分のノートに「まとめさせ、読みを確認してから発表させる。								